

## 令和2年度第1回 里庄町総合教育会議 議事録

- 1 日 時 令和2年9月29日(火)〈開会9時00分、閉会9時40分〉
- 2 場 所 里庄町役場本庁舎2階 第2会議室
- 3 出席者 町 長 加藤 泰久  
教育長 杉本 秀樹  
教育委員 宮崎 勇次 三吉 俊郎  
堀 朝子 藤井 幸治  
オブザーバー 内田副町長 小寺教育委員会事務局長  
淡路教育委員会参事 天野事務局長補佐  
事務局 赤木総務課長 佐藤総務課主事

### 4 議事にかかる出席者の発言

#### (1) 里庄町教育大綱について（議事進行：町長）

##### 【加藤町長】

里庄町教育大綱について、教育委員会から説明をお願いしたい。

##### 【杉本教育長】

まず、里庄町教育大綱の改定を行った箇所について説明をさせていただく。

里庄町教育大綱を改定するにあたって、第4次里庄町振興計画の期間と整合を図るため、計画期間を令和2年度から令和6年度までの5年間とする。

次に基本方針の改定項目は以下のとおりである。（1）学校教育の充実について、子どもたちを「認める」ことを大切にされた非認知能力の育成、ICT等の先端技術の活用をしながら教育環境整備を進める。（2）生涯学習について、豊かな地域づくりに反映される生涯学習の推進を図るなかで、人と人との繋がりを深め、心地よい喜びを味わえる教育を行っていく。（3）芸術・文化の振興・歴史の保存について、シビックプライドの醸成がキーワードとなる。これは子どもから大人まで、里庄町の良さや課題を知ってもらい、自分の「まち」を好きになってもらうには、事実を知ってもらうことが重要であり、シビックプライドを意識した教育を進めていく。（4）生涯スポーツ環境の充実について、少子高齢化の時代であり、年代に合わせた行事、多様なスポーツ種目を検討していく。（5）異なる国や地域・人との交流活動の推進について、多様な文化や価値観を認め合うことが重要である。ただ言語を学ぶだけでなく、人と人との繋がり、そして違いを認め合い、お互いを尊重し、人権感覚を養える教育を行っていく。以上が改定を行った箇所になる。

##### 【加藤町長】

説明があったことについて各委員から意見等があればお願いしたい。

### 【堀委員】

町長、教育長から ICT 等の先端技術の活用についての説明があったが、ICT 等の予算を取ってくれたことはありがたく思う。また、生涯学習について生活が安定していないと教育に手が回らないと思う。ひとり親家庭が増えている状況のなか、自分が考える範囲の子育てができるような環境整備をしていくことが必要ではないかと考える。

### 【杉本教育長】

ICT 等の関係だが、GIGA スクール構想として生徒一人に一台パソコンを設置する計画を進めている。しかし、課題として、小学生低学年から扱えるのか、自宅から授業に参加し長時間集中して勉強ができるのかといった課題もある。また、教職員に対し研修等も必要であり、いかに有効利用をしていくことが重要である。

ひとり親家庭等の生活が大変なことは、学校現場で感じている。教育委員会のみでは、十分な支援ができないが、心の安定を重要視しながら、各部局と連携し対応を行っていく。

### 【加藤町長】

先程、堀委員からありましたが、子どもたちが安心して学びの場に戻れるようにするためには、家庭の環境が大事になると考える。また、町としても今年4月から子ども子育て支援拠点を健康福祉センターに設置し、DV 問題や家庭の悩み等を相談できる体制を作っている。

### 【宮崎委員】

ICT 等の先端技術の活用は非常に良いことだと思う。ただ、私が感じていることは、行政、家庭が子どもたちを助けすぎている。助けすぎることによって、子どもたちが指示がないと行動できなくなるため、子どもたちが考え、新しいことを発想し、実行できる環境整備が必要ではないかと考える。

### 【三吉委員】

教育大綱の基本方針（3）芸術・文化の振興について、私の考えを説明させていただく。シビックプライドの醸成について、子どもたちの郷土に対する理解や愛着を深め、豊かな感性や心の育ちを促進していくには、子どもたちが町の行事に積極的に参画し、運営を行いながら、将来の里庄町を作っていける環境が重要ではないかと考える。

### 【杉本教育長】

子どもたちの行事への参画は、里ちゃんチャレンジワークやまこもたけ等を有効に活用している。また、宮崎委員からありました子どもたちへの手助けについてですが、親切のつもりが、子どもたちの成長を妨げてしまい指示命令だけをするといった教育になっている部分もある。指導者として、相手の心に響く伝え方や心に染み入る指導を自信を持ってやっていく必要がある。

(2) 非認知能力の取組みについて（議事進行：町長）

【加藤町長】

非認知能力の取組みについて、教育委員会から説明をお願いしたい。

【杉本教育長】

非認知能力の取組みについては、一度議題に挙げているので、ポイントを絞って説明をしていく。まず、子どもたちの現状を把握するために、里庄町「あなたの思い」調査を実施した。これは、小学校3年生から中学校3年生までの生徒全員を対象としたものである。調査結果を学校、学年別に数値化しているが、この結果は単純に数値の高さに依拠したものではない。つまり、数値が高いからといってそれがすべて正しいものではないということである。

非認知能力の育成について、当初学校では朝の会等を活用し3人程度のグループで自分の思いを発表する、授業のなかでは少人数でのグループワークを行う、日記等で一日の振り返りのこれら3つを計画していたが、現状は日記のみ実施をしている。その他についてはこれからといった状況になる。

【加藤町長】

説明があったことについて各委員から意見等があればお願いしたい。

【三吉委員】

学校だけでなく、家庭や町全体で子どもたちを支えていくことが、非常に重要であると考える。

【宮崎委員】

調査を行うと色々なことが分かる。

【藤井委員】

社会に出るとコミュニケーション能力等が非常に重要になる。自己開示や日記等を習慣化させることが重要ではないかと考える。

【堀委員】

子どもたちにやらせて、しゃべらせることをさせなければ認めることができない。まずは、子どもたちに多くのチャンスを作り、指導者や保護者は見守ることが仕事ではないかと考える。

【杉本教育長】

子どもたちに、発言させるチャンスを与えながら自信を持たせ子どもたちが工夫をしていくような教育をしていきたいと考える。

【加藤町長】

その他、教育行政全般について、意見等はあるか。

全委員意見なし。

本日の議事を終了する。